

Y12a 木曾観測所 50周年を機に実施した地域連携事業

衣笠健三, 近藤荘平, 新納悠, 森由貴, 高橋英則, 小林尚人 (東大木曾観測所), 瀧田怜, 酒向重行 (東大天文学教育研究センター), 渡邊文雄, 川村晶, 神前卓爾ほか木曾観測所サポーターズクラブ、大西浩次 (国立長野高専), 宮地美由紀 (塩尻星の会) ほか「長野県は宇宙県」連絡協議会

木曾観測所は東京大学東京天文台の5番目の観測所として1974年10月に開所されました。以来、口径105cmシュミット望遠鏡を中心とした観測研究や観測機器の開発、大学や大学院教育活動、そして、アウトリーチや星空振興などの社会還元や地域連携活動といった3つを柱として活動を行っています。特に、地域の方々との対話や協力関係は開所以前から行われており、観測所の運営等を支えて頂いています。一昨年には地域の方々を中心とした木曾観測所サポーターズクラブが設立され、観測所の環境維持やイベント開催などで多大な貢献を頂いています。このように、木曾観測所は東京大学の地方施設として大学と社会と繋げる大きな役目も果たしてきています。

このような地域との協力関係を維持し、さらに発展させていくことを踏まえ、昨年2024年に木曾観測所が50周年を迎えたことを記念して、いくつかの地域連携イベントを開催しました。地元木曾町で開催した記念シンポジウムや記念式典をはじめ、木曾郡内を巡る巡回写真展、そして、木曾郡内の小中学校を対象とした見学受け入れ事業などを、地域との共催や協力によって実施しました。さらに、木曾観測所50周年記念として「長野県は宇宙県」連絡協議会が主催した星空観望会は、長野県の科学館やプラネタリウムなどの社会教育施設、星の会等に呼びかけて実施したもので、合計で23ヶ所、41回の観望会が開催され、のべ1000人にも及ぶ方々に参加いただきました。

本講演では、50周年を記念したイベントの詳細とともに木曾観測所の地域連携の現状について紹介します。